



# 千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 | (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.1.11 No. 3331

## 「91.3ダイ改」組織破壊を狙った

# 業務移管を粉碎しよう

### 「ダイ改」阻止に 全力でたとう

「九一・三ダイ改」については、「三月十六日実施」が十二月二十一日になってやっと明らかになったものの、肝心な具体的労働条件は一切明らかにされていない。空港アクセス輸送の開始に伴い、内・外房特急を総武線経由から京葉線経由へ振り替えるなど、県下の輸送体系を根本的に変える重大なダイ改にもかかわらず、今だ労働条件を提示しないことは、いかなる意味でも認められない。しかも、JR総連革マルと一部職制が結託し、東京への業務移管を広言し、動労千葉の組織破壊策動を公然と行っているのだ。

今次ダイ改は、こうした業務移管攻撃―組織破壊攻撃との闘いであり、業務移管―余剰人員化―出向・配転という攻撃との闘いである。全支部が早急に闘いの体制をうち固め、「ダイ改」阻止闘争に全力でたとう。

### 全面業務移管が目標？

「十二月中旬開催されたJR東労組東京地本定期委員会で、松戸電車区革マルの石川は地本業務部長としての答弁で『総武快速線・緩行線の全面業務移管が目標だ』と発言した」と東京の乗務員が各所でふれ歩いている。当局が団体交渉で「今だはつきりしない」と主張している業務移管の具体的中身を、革マル分子が職場の内外で具体的にふれまわっているのだ。この「ダイ改」・業務移管が千葉から仕事を奪うことで、動労千葉の組織を破壊することに狙いがあることははつきりしている。

### 「五仕業?」、七仕業?」 ―津田沼運転区・革マル野口の発言―

さらにこれに呼応するように、津田沼運転区の革マル分子野口が、運転区のみならず公然と、「今度のダイ改では、五仕業か、七仕業、東京に移管する」と吹聴していることが判明した。ここにはつきりしていることは、千葉の運転職場の仕事が東京にとられることを、千葉の革マルどもは歓迎しているということだ。津田沼や千葉転の仕事がなくなるが、自分らには「聖域」の京葉線がある、動労千葉の職場がなくなればそれでいい、と革マルは考えているのだ。こうした連中を「役員」にいたくJR東労組の組合員や、結託を深めるJR千葉支社幹部は、この野口発言をどう考えるのか。まさに、革マル分子の言いなりになることは、自らの首をしめることになるのだ。

### セクトの立場での 業務移管

また、こうした発言は、職場のなかに動揺を生みだすことを通して、組織破壊を狙うことが目的なのだ。

「(ダイ改で)千葉転は地獄になる」と公言した土岐千葉転区長、「五仕業、七仕業」と具体的に仕業数まで明らかにした革マル野口。ここに共通しているのは、動労千葉の組織破壊ができれば、自分の職場が奪われようがかまわない、というセクトの立場での発言だということだ。

この不当なうえにも不当な、千葉支社・JR総連革マルの一体となった業務移管攻撃をストライキも辞さぬ闘いで粉碎しよう。

## 本日「争議行為 に関する通知」 を提出

動労千葉は、本日十一日、労働関係調整法第三十七条にもとづく、争議行為に関する通知を、労働省と中央労働委員会に行う。これは、JR東日本およびJR貨物の全職場を対象に、三月十六日実施の「ダイ改」に伴う労働条件確立、運転保安確保および懸案諸要求の解決に関して争議を行うための通知である。

いまに至るも「ダイ改」の具体的な労働条件を提示しないJR東日本とJR貨物にたいし、ストライキも辞さず闘いにたちあがる。とりわけ、JR総連革マルと結託して組織破壊を狙ったJR東日本の業務移管を許さないためにも、全職場で強固な闘争体制を築きあげよう。

十一月十三日  
団結旗開き  
千葉県労働者福祉センターにて